第79回麻布獣医学会　一般講演8

乳牛の乳房，乳頭，蹄の外傷管理［症例報告］

阿部　紀次，佐竹　直紀，西越　崇博，山下　彰一，黒崎　尚敏

(有)トータルハード　マネージメント　サービス（別海町）

外傷管理一般論において，「清潔」・「安静」・「保湿」が基本と言われる。しかし，乳牛の乳房，乳頭や蹄の障害では，特に清潔・安静な状態を得難い。理由として以下の事項が考えられる：★乳牛の乳房や蹄は通常の生活で有機物（糞尿・乳汁・敷料）に接する機会が多い。★起立時，特に床がコンクリートで飼養されている牛では蹄への圧力が大きく加わる（含摩擦）。★伏臥時，乳房・乳頭には圧力が加わる（含摩擦）。★搾乳時，乳頭は刺激される。★乳房・乳頭は乳汁の貯留という内圧を受ける。★更に，それら内外圧により大きく変形する。

そこで今回，上記のような必然を踏まえながらも，患部の「清潔」・「安静」・「保湿」を目指していくつかの症例を処置し，若干の知見を得たので報告する。

＃1　乳房の外傷：敷料に混入した竹箒の破片が乳房に刺入し，膿瘍を形成したもの。患部のデブリドマン，超酸性水による洗浄，紙パッチを繰り返し，治癒に至った。

＃2　乳頭の穿孔性損傷：乳頭端（フルステンベルグロゼット近位）での乳槽を含んだ切創。患部のデブリドマンと術前の徹底的な洗浄・消毒，Gambee変法，皮膚のステープラー縫合，および留置式導乳管（Aチューブ）により治癒に至った。

＃3　乳頭損傷1：乳槽に達しない乳頭の切創。患部のデブリドマンと術前の徹底的な洗浄・消毒，皮膚のステープラー縫合，および7日間の搾乳停止により治癒に至った。＃4　乳頭損傷2：上記＃3と同様の症例であったが，患部の消毒前後に行ったスワブから細菌の除去が不十分であったことが確認された。術部は化膿し，乳房炎を併発した。

＃5　蹄病（蹄底潰瘍）：フリーストール（コンクリート床）における一般的な蹄底潰瘍。維持削蹄，健康蹄へブロック装着，患部のデブリドマン，綿花パックを行い治癒に至った。

以上症例の治療経過から，乳牛の乳房・乳頭・蹄処置においても，外科的外傷管理の基本を遂行することが治癒を向上させるものと再認識できた。